

株式会社大泉製作所  
(証券コード:6618)

2023年3月期 第2四半期決算説明会

2022年11月25日

センサで世界を測る、未来を拓く。

**OHIZUMI**

# 1. 会社概要

2. 2023年3月期 第2四半期(累計)業績

3. 2023年3月期 通期業績予想

4. 中期事業計画(21-23年度)進捗

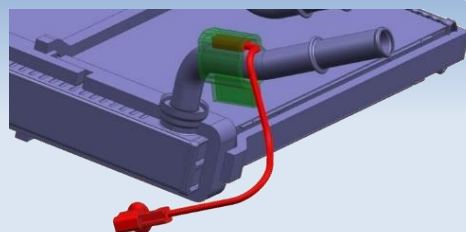
会社名	株式会社大泉製作所
事業内容	サーミスタを利用した温度センサ等電子部品製造及び販売
所在地	(本社) 埼玉県狭山市 (製造拠点) 青森県、中国・東莞市、タイ・チョンブリー県 (営業拠点) 東京、愛知、京都、上海、シュツットガルト
設立	1944年3月
主要株主	株式会社フェローテックホールディングス 51.0% (2022年9月30日現在)
従業員数	グループ合計1,588名/単体 193名(2022年3月31日現在)
関連会社	(国内) 八甲田電子株式会社、センサ工業株式会社 (海外) 東莞大泉傳感器有限公司、OHIZUMI MFG(THAILAND)

## ■革新的なサーミスタで 地球環境、快適な暮らしに貢献

### ■自動車部品事業

#### 注力領域

二次電池用  
熱マネジメント用  
モーター用



#### 既存領域

カーエアコン用  
クーラント用  
エンジン吸気用 燃料用 その他



### ■空調・カスタム部品事業

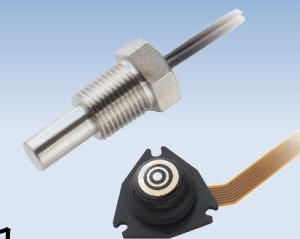
#### 注力領域

室外機高温熱交用  
室外機吐出管用  
工作機械用



#### 既存領域

室外機外気用、室内機用  
家電住設用  
医療機器用 鉄道用 その他



### ■エレメント部品事業

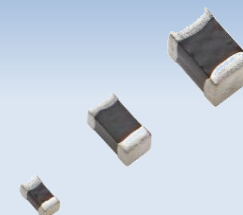
#### 注力領域

光通信用  
(FTTx、5Gインフラ)



#### 既存領域

パワーモジュール用  
車載機器用 産業機器用  
家電住設・医療機器用その他



# 主要な取引先

- 自動車部品は国内外のTier1メーカー、  
空調・カスタム部品は家電メーカーや工作機メーカーが主要顧客

## 自動車事業 (Tier1 経由で納入)



## 空調・カスタム事業



## サーミスタ市場 リーダー

- 安定成長する車載用温度センサで世界トップクラスシェア
- 空調機需要が増加中のアジア地域で高シェアを獲得

## 優良な 顧客基盤

- 自動車部品：デンソー、プライムプラネットエナジー、矢崎部品、BOSCH、Mahle-Behr、Vitesco等  
国内外多くのTier1メーカーとの取引
- 空調用：ダイキン、三菱電機等

## 高い 技術力

- 素材R&Dと製造技術による高品質のサーミスタ（セラミック半導体素子）
- 顧客との共同開発を可能とする高い設計技術

## ■長期にわたり高シェアを維持する既存領域製品

### ■カーエアコンエバポレータ用温度センサ

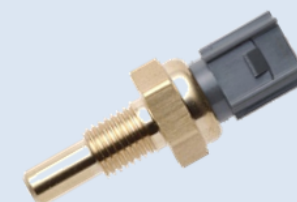


22/3期販売個数  
**29百万個**

世界自動車販売台数  
78百万台

推定シェア\*  
**37%**

### ■エンジンクーラント用温度センサ



22/3期販売個数  
**18百万個**

世界自動車販売台数  
78百万台

推定シェア\*  
**23%**

\*車両1台にセンサを1個使用する前提で算定

世界自動車販売台数：出所 富士キメラ\_2022年3月

■素体からセンサ完成品までグループ内で一貫生産、グローバル市場へ

## グローバル顧客

セラミック半導体新工場



エレメント製品



温度センサ製品



組み立て工場



素子加工工場



八甲田電子(日本)

センサ工業(日本)  
東莞大泉傳感器有限公司(中国)  
OHIZUMI MFG (THAILAND)

セラミック半導体工場



十和田工場(日本)

微細加工技術

高品質製品の組立技術

緻密な焼結体の技術

素子販売約3億個/年\*

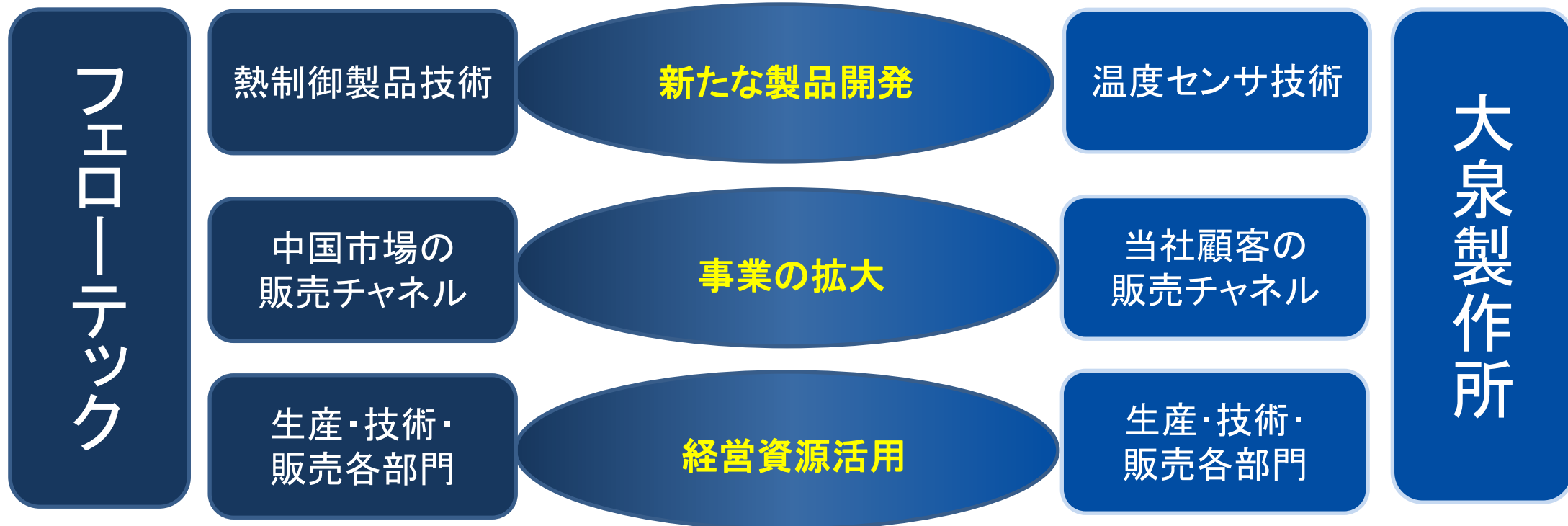
製品販売約2.3億個/年\*

\* 素子及び製品販売個数は22/3期実績



- 2021年3月 資本業務提携契約を締結(持株比率 29.12%)
- 2022年8月 TOB・割当増資で同社の連結子会社化(持株比率 51.0%)

## ■両社の得意分野を掛け合わせたシナジーで事業の拡大に取り組む



1. 会社概要
- 2. 2023年3月期 第2四半期(累計)業績**
3. 2023年3月期 通期業績予想
4. 中期事業計画(挑戦2023)進捗

- 空調・カスタム事業の伸長と円安効果により前年同期比増収
- 成長投資、外部環境悪化で営業利益は前年同期比減益
- 円安による為替差益で経常利益を押し上げ

## 【売上】

- 自動車部品：電動化領域が増加も、車両減産により事業全体は減収
- 空調・カスタム部品：旺盛な需要による増収が継続

## 【収益】

- 材料高騰のリカバリや円安効果はあったものの、成長投資の推進やエネルギー価格上昇等が営業収益を圧迫
- 経常利益は為替差益で増加も、増資コストにより純利益は微減

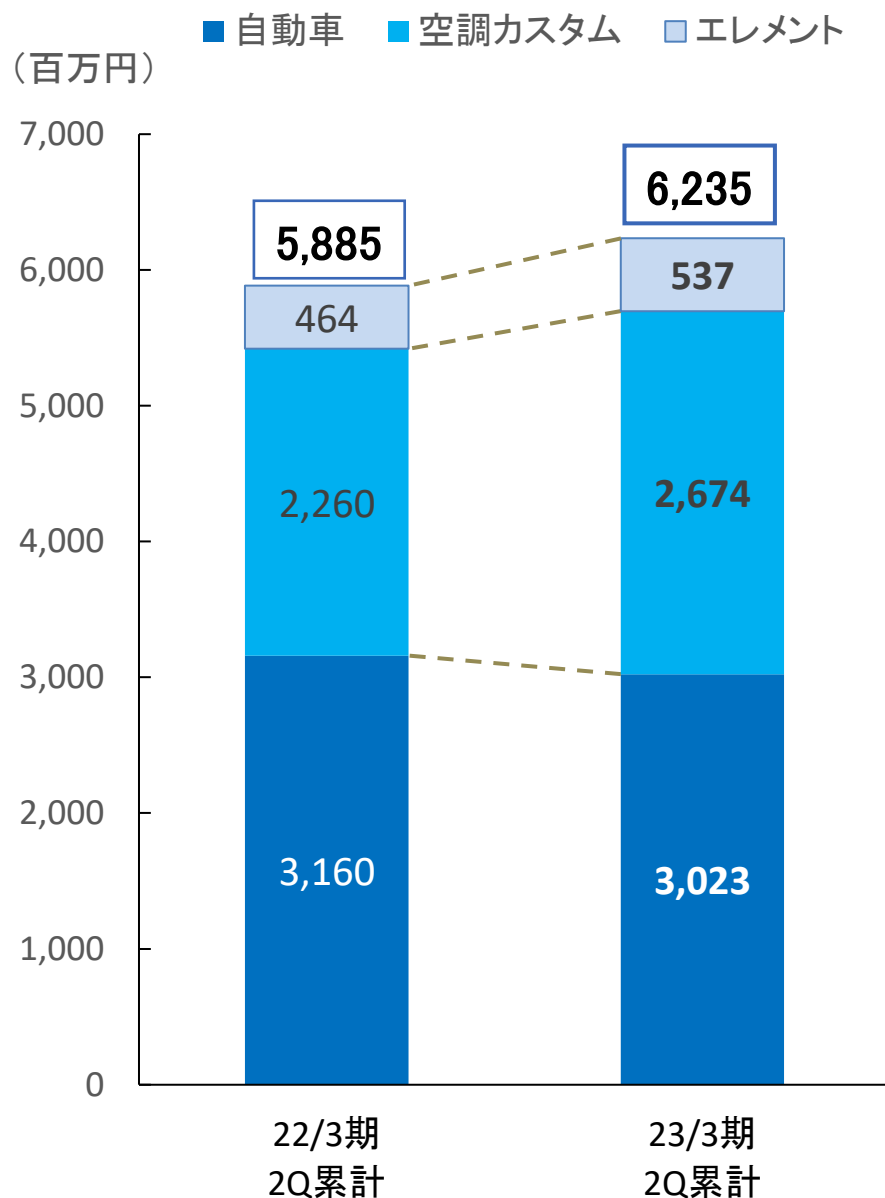
# 第2四半期(累計)損益計算書

OHIZUMI

単位:百万円

	22/3期 上期		23/3期 上期		
	実績	売上高比	実績	売上高比	前年同期比
売上高	5,885	100.0%	6,235	100.0%	+5.9%
売上原価	4,579	77.8%	4,906	78.7%	+7.1%
売上総利益	1,306	22.2%	1,328	21.3%	+1.7%
販管費	906	15.4%	1,040	16.7%	+14.8%
営業利益	400	6.8%	288	4.6%	▲27.9%
営業外損益	▲44	▲0.7%	187	3.0%	—
うち為替	▲25	▲0.4%	187	3.0%	—
経常利益	355	6.0%	476	7.6%	+34.1%
特別損益	▲0	▲0.0%	▲79	▲1.3%	—
法人税等	▲107	▲1.9%	▲161	▲2.6%	—
当期純利益	247	4.2%	235	3.8%	▲4.9%

# 第2四半期(累計)事業別売上高



事業	前年同期比 (百万円)	増減率	増減コメント
全体	+350	+ 5.9%	●自動車減収を空調カスタム、エレメントの好調で補った
自動車	▲ 137	▲ 4.3%	●半導体不足や顧客の稼働減により既存品売上が減少 ●電動化領域は新規製品立上げや熱マネ需要増で減産をカバー、前年同期比増加
空調カスタム	+ 413	+ 18.3%	●エアコン市況の好調継続、ASEAN向けを中心に増加 ●工作機用の需要増と季節製品のまとめ受注でカスタム事業も好調が続く
エレメント	+ 72	+ 15.7%	●光通信用はFTTx需要、在庫調整からの回復、新規採用等により前年同期比+60%

# エリア別売上高

- 日本 : 電動化領域は増加したものの、車両減産影響が大きく減収
- 中国 : 工作機及び光通信用の市場拡大により増収
- ASEAN : インド向け電動化領域の増加、空調用の好調等により全事業で増収

単位: 百万円

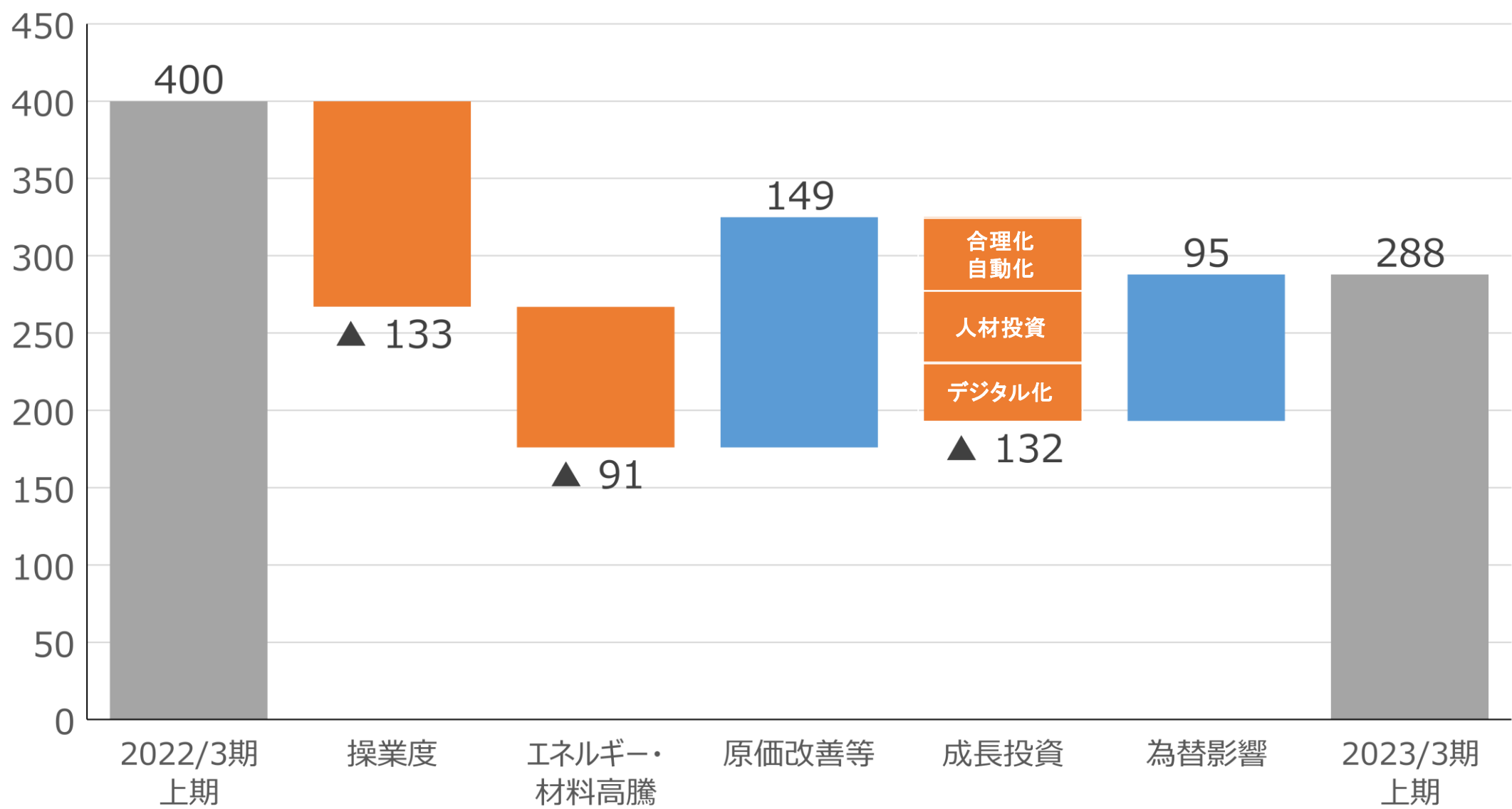
エリア	22/3期 2Q累計	構成比	23/3期 2Q累計	構成比	前年同期比	増減率
日本	2,667	45.3%	2,496	40.0%	▲170	▲6.4%
中国	1,440	24.5%	1,679	26.9%	+239	+16.6%
ASEAN (含インド)	592	10.1%	839	13.5%	+246	+41.6%
その他	1,185	20.1%	1,219	19.6%	+33	+2.8%
合計	5,885	100.0%	6,235	100.0%	+350	+5.9%

\* エリア区分は当社の納入先を基準とし、各売上高には納入後に他国に輸出されるものが含まれます。

# 第2四半期累計 営業利益増減

百万円

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計



- フェローテックホールディングスを割当先とする第三者割当増資(8億円)により株主資本、現預金が増加(調達資金はサーミスタ増産及び自動化投資に充当予定)
- 顧客の生産回復に備えた棚卸資産増加を現預金で賄った

(単位:百万円)

◇資産の部	22年3月	22年9月	増減
流動資産	7,689	8,931	+1,242
現金預金	1,738	2,451	+713
売上債権	2,678	2,844	+166
棚卸資産	3,069	3,438	+368
その他	202	196	△5
固定資産	3,660	3,867	+207
有形固定資産	3,078	3,258	+179
無形固定資産	132	125	△7
投資その他	449	483	+34
資産合計	11,349	12,799	+1,449

◇負債・純資産の部	22年3月	22年9月	増減
流動負債	3,948	4,451	+503
仕入債務	1,370	1,394	+24
有利子負債	1,812	2,017	+205
その他	765	1,039	+274
固定負債	3,923	3,738	△185
有利子負債	3,247	3,112	△135
その他	675	626	△49
負債合計	7,871	8,190	+318
純資産合計	3,477	4,609	+1,131
株主資本	2,742	3,710	+967
その他	734	898	+164
負債・純資産合計	11,349	12,799	+1,449



1. 会社概要
2. 2023年3月期 第2四半期(累計)業績
- 3. 2023年3月期 通期業績予想**
4. 中期事業計画(挑戦2023)進捗

## ➤ 通期業績見通しは期初予想を据え置く

### 【下期のポイント】

#### ① 売上高

- 自動車部品は上期で底打ち、車両生産回復による増加を見込む

#### ② 収益

- 人材配置や製造コストを見直し、外部環境悪化への対応に注力
- 中計目標を目指した成長投資を推進

- 上期実績及び為替の状況を考慮し、前提レートを変更
- 第3四半期以降の市場環境や外部環境悪化の継続等を勘案し現時点においては通期予想を据え置く

単位：百万円

	2022年3月期		2023年3月期				
	実績	売上高比	予想	売上高比	上期実績	売上高比	進捗率
売上高	11,882	100.0%	13,000	100.0%	6,235	100.0%	48.0%
営業利益	598	5.0%	700	5.4%	288	4.6%	41.2%
経常利益	536	4.5%	640	4.9%	476	7.6%	74.4%
当期純利益	427	3.6%	480	3.7%	235	3.8%	49.1%

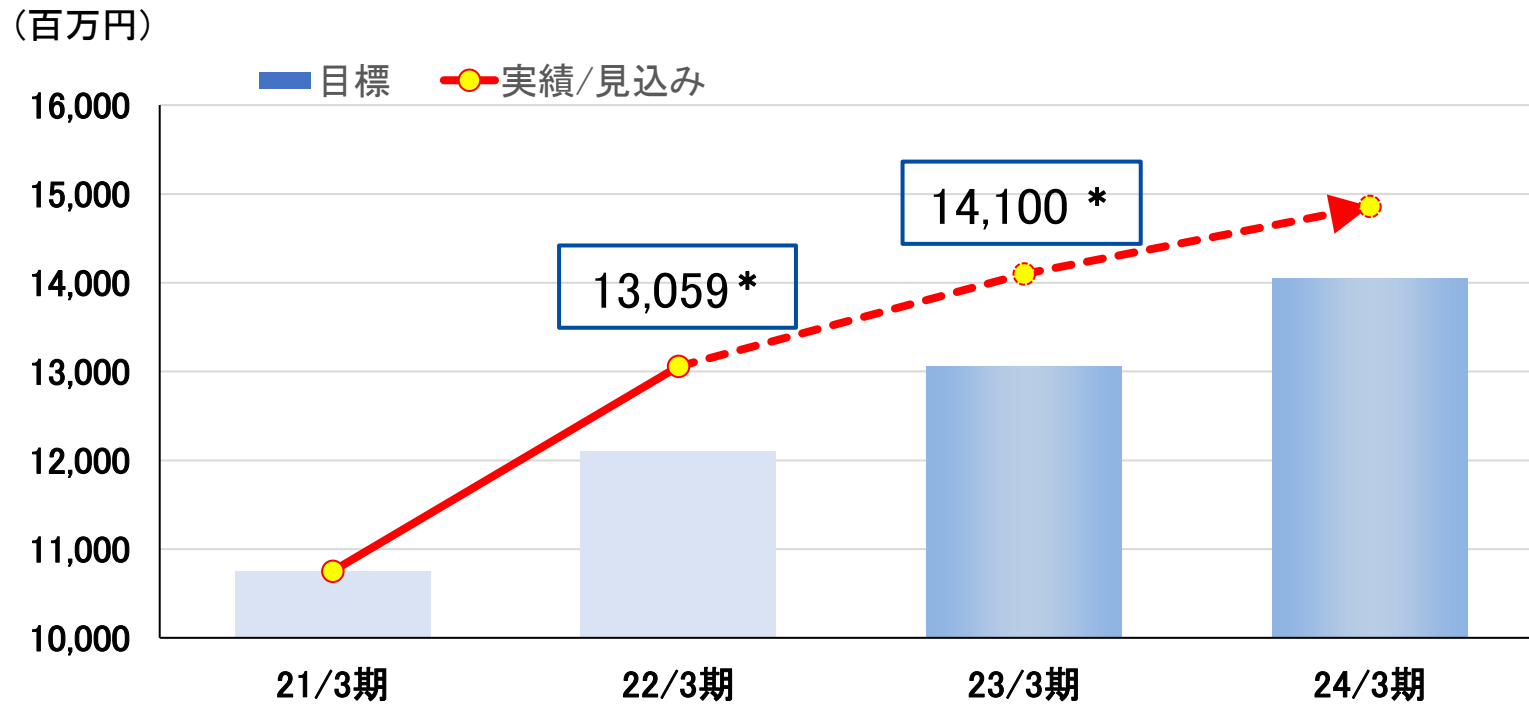
- \* 2023年3月期予想は2022/5月の公表値を記載しております。
- \* 2023年3月期下期の為替レートはUSD 144.00円を前提としております。

1. 会社概要
2. 2023年3月期 第2四半期(累計)業績
3. 2023年3月期 通期業績予想
4. **中期事業計画(挑戦2023)進捗**

<b>経営目標</b> 2023年度(2024年3月期)	<b>売上高 140億円</b> (新会計基準適用 130億円)	<b>営業利益率 8.0%</b> (新会計基準適用 8.6%)
---------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------

経営戦略		進捗状況
成長 拡大	■ 自動車 電動化領域の強化	新規製品の量産に向けた立上げと拡販活動を推進
	■ 空調カスタム 主要顧客との取引深耕	好調な市況の下、さらなる顧客内シェアアップに注力
	■ エlement 光通信用拡販	FTTx需要で市場拡大、拡販による新規受注獲得
体質 強化	■ 合理化・自動化による 製品競争力向上	増産・自動化投資を推進、24年3月期より順次稼働
	■ デジタル化による 生産性向上	システム導入と情報セキュリティ強化の推進
	■ 組織・人材力強化	キャリア採用と幹部候補人材の育成

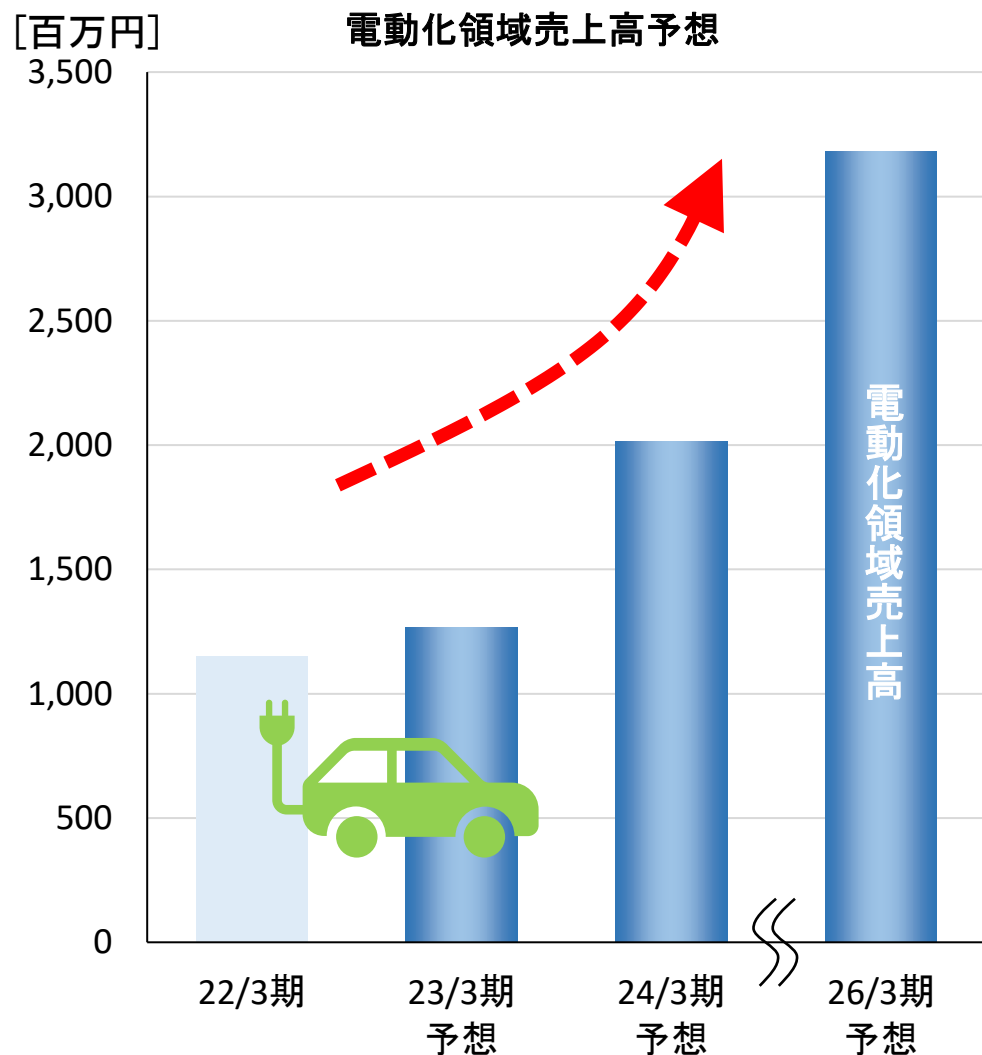
- 売上： 23/3期は車両減産影響も、空調事業好調と円安効果もあり計画を上回る見込み  
24/3期は電動車需要増加により更なる増収を見込む
- 利益： 外部環境悪化に対しコスト削減に注力、自動化投資の推進で目標達成を目指す



営業利益率*	2.9%	4.6%	5.0%	8.0%
--------	------	------	------	------

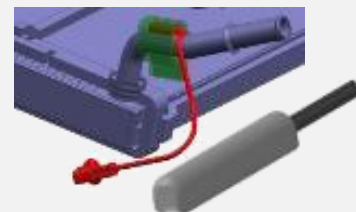
\* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期以降の売上高、営業利益率は旧会計基準による値で記載しております。

■ 電動車需要高まるも足元は半導体不足による車両減産で成長鈍化  
 今後は車両増産と用途拡大による伸長を見込む



## 売上伸長の3本柱

### 熱マネジメント



熱マネ用途の広がり  
と搭載車種拡大

### 二次電池



電動車需要の増加  
と搭載車種拡大

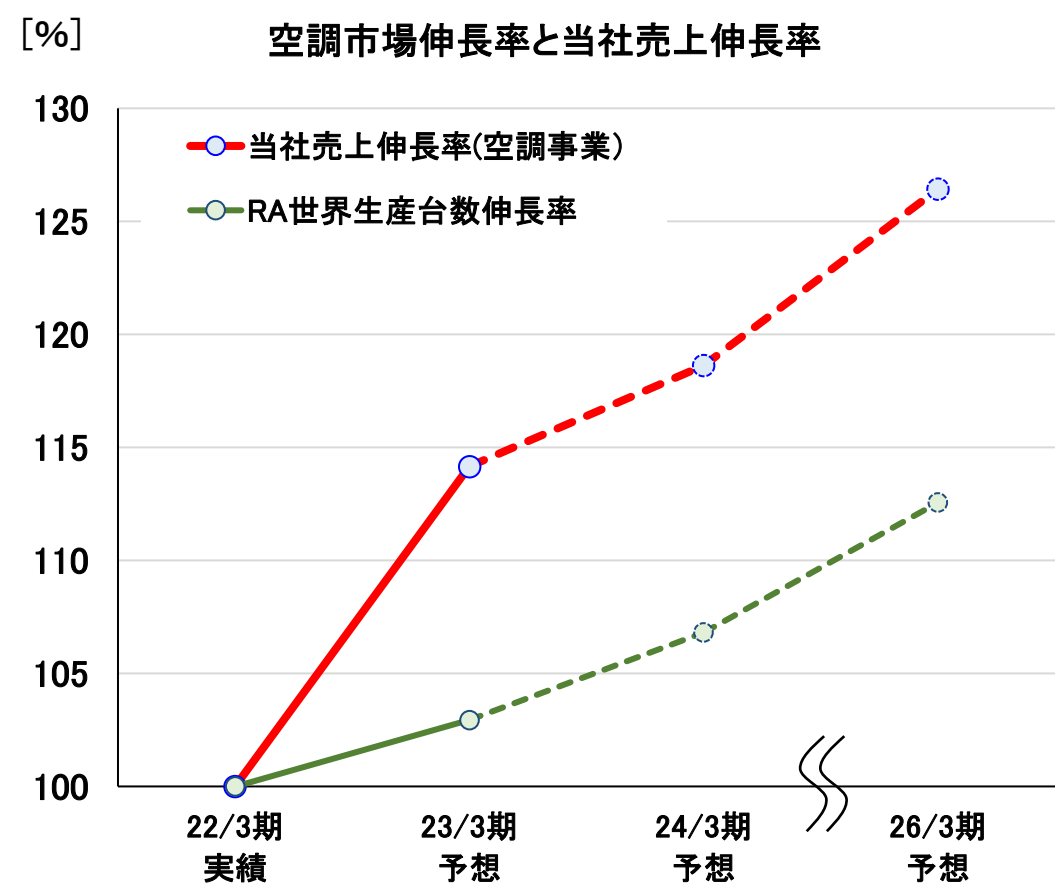
### モーター



生産ライン新設  
24/3期量産納入開始

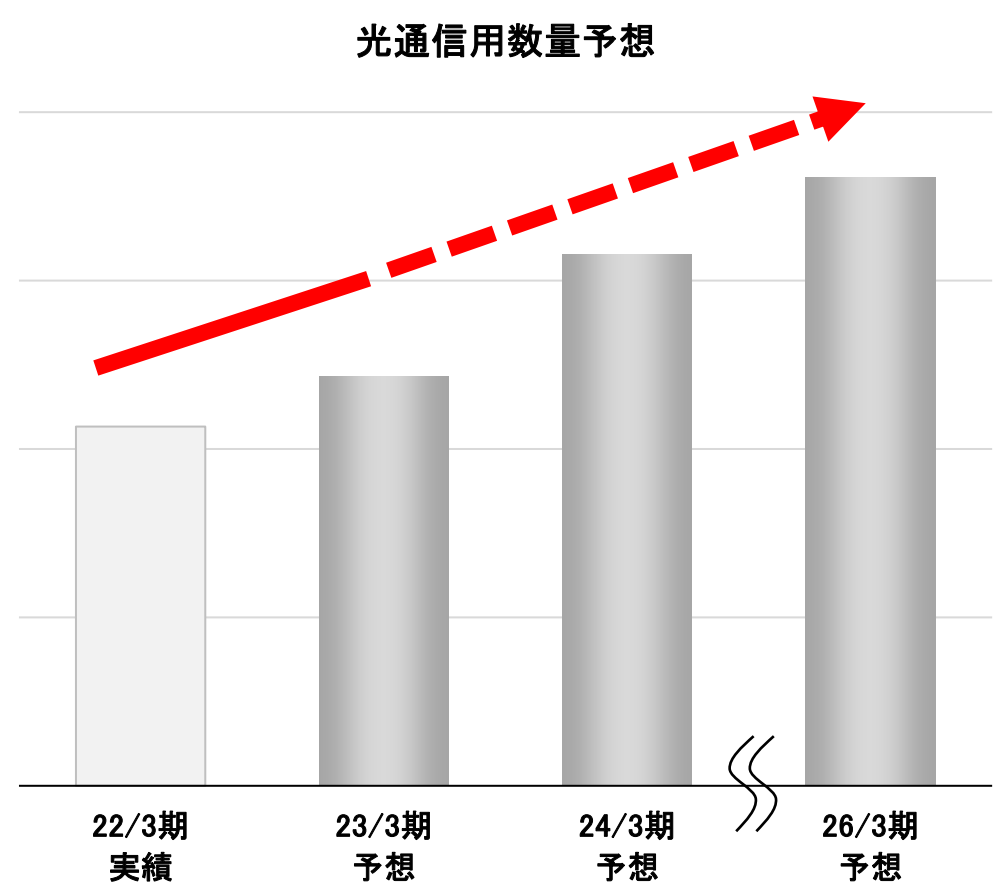
## ■空調事業

顧客内シェアアップにより市場成長を超える売上増を見込む



## ■エレメント事業(光通信用)

FTTxを中心に光通信需要が増加



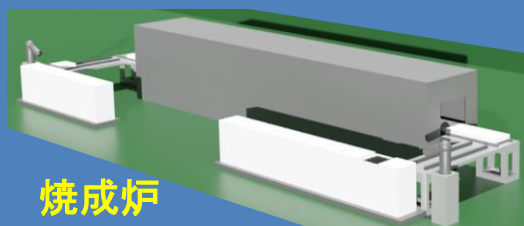
空調市場伸長率予想出所: 2022年2月富士経済



## ■ 合理化・自動化投資(競争力向上)

- 22年6月 第三者割当増資を実施、投資資金8億円を調達
- 合理化・自動化投資を推進、24年3月期より順次稼働を予定

### セラミック半導体 5億円



焼成炉

- ・素体生産能力倍増
- ・無人稼働、コスト削減

### 素子加工 3億円



- ・素子生産能力1.3倍
- ・合理化、生産性向上
- ・小型製品生産対応

### センサ組立 2億円

自動生産設備



- ・自動車用新規製品生産
- ・自動化によるコスト削減

## ■ デジタル化推進

### システム導入

生産管理、販売、会計、製造等  
全社での生産性向上

### ITインフラ

働き方多様化、セキュリティ強化、  
生産性向上

## 注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的  
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得ら  
れた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を  
払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負  
うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行  
われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

# OHIZUMI

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/>